



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第15号

発行:レムナントキリスト教会

価格:100円（送料込みで200円）

【目次】

- ◎聖書からのメッセージ:助け主 エレミヤ
- ◎高ぶりを打ち砕く:進化論の誤り(11)「廃業してしまった進化論者」
- ◎箴言から学ぼう!:神さまにお祈りを聞いてもらうためには?
- ◎詩篇を読む:神さま(イエス・キリスト)を王とするなら
- ◎キリストを信じた体験談:神さまが真の解決者であることを知った シャローム
- ◎聖書に関する偉人のことば:マハトマ・ガンジー
- ◎ご案内:聖書贈呈、聖書通信講座

<聖書からのメッセージ>

助け主

by エレミヤ

[聖書箇所]ヨハネの福音書16:5-7

16:5 しかし今わたしは、わたしを遣わした方のもとに行こうとしています。しかし、あなたがたのうちには、ひとりとして、どこに行くのですかと尋ねる者がありません。

16:6 かえって、わたしがこれらのことをあなたがたに話したために、あなたがたの心は悲しみでいっぱいになっています。

16:7 しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところ遣わします。

今回は、「助け主」という題で聖書を見ていきたいと思えます。キリストは今でも助け主として私たちに助けてくださる、ということ語りたと思うのです。

聖書を読み、理解出来ることは、たしかにイエス・キリストという人は、本当に素晴らしい助け主であった、ということです。キリストは生まれつきの盲人の目を開き、見えるようにしました。また、38年もの間、歩くことの出来なかった中風の人もキリストによりたちまち癒され、歩けるようになりました。また、多くの群衆に対して神に関する素晴らしいメッセージを行い、歩むべき方向、教えを与えたのです。これらのキリストの働きは、たしかに素晴らしいのです。そして私などは、もし自分の近くにこのキリストが住んでおられるなら、是非そこへ行ってその話を聞きたい、病があれば癒していただきと心から思うのです。

しかしそうは思っても実際問題、現在の時代、21世紀に住む我々には問題があります。それはイエス・キリストが地上におられたのは今から2000年も前のことであり、しかもそのおられた場所も日本を遠く離れたイスラエルの地なので、我々が肉体を持ったキリストに会うとか助けを受けるなどという可能性は全く無いからです。キリストの助けは素晴らしいそうですが、しかし現代に住む我々にとり、

助け主 エレミヤ

実際の助けにはならない、という問題があるのです。

さて、上記テキストはこのような問題を扱っている、と理解出来ます。ここで弟子たちもある意味、私たちと同じような状況に置かれていました。上記テキストの状況を説明するなら、この場面はいわゆる最後の晩餐の場面です。3年半キリストと寝食を共にして、働きを担っていた弟子たちですが、この日を最後にキリストとお別れになるという日だったので。なぜならこの後キリストは逮捕され、次の日には十字架に付けられ、命を失うようになることが定められていたからです。

今まで弟子たちを教え、導き、必要な助けを与えてくださった彼らの助け主であるキリストは、この日を境に彼らを離れて行ってしまうのです。上記ことば、「**かえて、わたしがこれらのことをあなたがたに話したために、あなたがたの心は悲しみでいっぱいになっています。**」とのことばの通り、弟子たちの心が悲しみや不安で一杯になったとしても、無理の無いことだと言えるかも知れません。肉体を持ったキリストが彼らの近くにいたからこそ、彼らは心強くあり、助けられていたのです。そのキリストが次の日には十字架に付けられ、彼らを去って行ってしまうなら、その後どこに、また、誰に助けを求めたら良いのでしょうか？

さて、そのような質問、疑問に関してキリストはこう語られたのです。「**しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。**」と。

キリストが去って行くことが益？どういう意味なのでしょう？とてもそうは思えません。何か口先だけの慰めを弟子たちに語っているのでしょうか？

「それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところに遣わします。」

ここでキリストは自分は去って行くが、しかしキリストを信じる人々のために、「**助け主**」を送られることを約束されているのです。どうもこの助け主が鍵のようです。それでは助け主とは一体、何なのでしょう？このことに関しては、ヨハネの手紙14章16節～19節を見ると理解出来るそうです。これらの節を順に見ていきましょう。

〔聖書箇所〕ヨハネの福音書14:16

14:16 わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。

ここで書かれていることは、父なる神はキリストに代わってキリストを信じる人々に対して助け主を与えてくださる、ということです。そしてその助け主は、「**いつまでもあなたがたと、ともにおられる**」すなわち、いつまでも私たちの生涯を助けてくださる方である、ということなのです。キリストは素晴らしい助け主でしたが、しかし残念ながら3年半の短い公生涯の間しか助け主としては、世におられませんでした。福音書の時代、多くの人が助け主キリストから受けたような助けをこの方から我々も受けることが出来る、ということをごここでは語られているのです。素晴らしいことです。

〔聖書箇所〕ヨハネの福音書14:17

14:17 その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちに住むからです。

その助け主とは何かと言うと、上記に、「**その方は、真理の御霊です。**」と書かれていますように、神の霊である御霊です。日本で育った我々は、霊ということばや概念には馴染みが無いかも知れません。しかし聖書は、人は物質のみから成り立っているのではなく、肉体（物質）と霊とからなることを語ります。この聖書のことばを尊重して考えてみたいと思います。さて、霊は見えないので、この世にとっては存在していないかのようなものです。事実、新聞もテレビも、神の霊の存在のことなど語りません。ですから、「**世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。**」と書かれています。

「しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちに住むからです。」

しかしキリストを信じる人々、クリスチャンはこの御霊が存在することが理解出来ますし、知ることが出来ます。また、御霊が我々と共に住むことを実感として理解出来るようになります。このあたりはいくら説明されても分からないでしょうが、しかし

助け主 エレミヤ

信じて体験すれば理屈抜きに分かる事柄です。

〔聖書箇所〕ヨハネの福音書14:18

14:18 わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。わたしは、あなたがたのところに戻って来るのです。

キリストは十字架に付けられ、弟子から離れて行き、弟子はある意味、孤児のように捨てられてしまうようにも見えますが、キリストはそうではなく、戻って来ると言われます。このことの意味合いは何でしょう？

〔聖書箇所〕ヨハネの福音書14:19

14:19 いましばらくで世はもうわたしを見なくなります。しかし、あなたがたはわたしを見ます。わたしが生きるのです、あなたがたも生きるからです。

この世にとっては見える人、肉体を持ったキリストがいなくなれば、それでもうその人はいない、ということになります。それが、「**いましばらくで世はもうわたしを見なくなります。**」とのことばの意味合いです。

「しかし、あなたがたはわたしを見ます。わたしが生きるのです、あなたがたも生きるからです。」

しかし、キリストを信じる弟子にとっては、そうではありません。キリストは御霊として彼らの間に留まり、彼らは御霊、キリストの霊により生きるようになるのです。すなわち御霊とは、キリストの霊のことなのです。

まとめます。キリストを信じる人は、神の霊である聖霊を受けますが、それはまた、そのままキリストの霊なのです。ですので、私たちはキリストの時代から2000年以上経った現代でも、その霊を通してキリストの助けを受けることが出来、それが聖書の語っていることなのです。そしてこのキリストのことばを嘘である、偽りであるとせず、逆に真実であると信じ、求める人はこのキリストの霊を受け、御霊の助けを受けるのです。

そのようなわけで、聖書のまた、キリストの教えの大事なポイントはこの箇所です。聖書は単なる昔話を語っていたり、また、小説のようにフィクションのことばを語っているのではないのです。逆に我々の現実の生活、現実の問題を助ける、リアルな助け主のことを語っているのです。

個人的な話で恐縮ですが少し書かせてください。私が初めてこのような話を聞き、キリストが御霊として今も我々を助けてくださる、と聞いたのは私がまだ高校生、キリスト教のキャンプに参加した時でした。そこで私は教師を通してキリストの霊が今もおられること、祈りに答えて私たちを助けてくださることを聞き、それを信じようと思ったのです。

さて、そのキャンプの中で私には早速、助け主に祈り求める必要が起きました。そのキャンプの最後の夜、皆でキャンプファイヤーを行う計画がありました。その中で参加者皆が一人ずつ証として、それぞれ話す機会があったのです。それで私は少し困りました。私は上がり症で人前は駄目なのです。100人もの人前で話すなら話がしどろもどろ、支離滅裂、まともな話にならないのは目に見えていました。それで私は今も助け主としておられる、というキリストに祈り、助けを求めたのです。結果はどうなったか？不思議にも私は落ち着いて順序正しく、人前で話することが出来、無事に終えることが出来ました。後で良い話だった、などとほめられたりさえました。その時たしかに私は分かったのです。自分の力ではない、そうでなく、祈りに答え、キリストが助けてくださったことが分かったのです。この方がたしかに助け主です。



最後の晩餐

高ぶりを打ち砕く:進化論の誤り(11)廃業してしまった進化論者

人はどこから誕生したのか?その問題に関して聖書は「神が人を創造した」と述べます。しかし日本においては、学校で進化論が教えられており、人は猿から進化したと説きます。では、その進化論は正しいのか?それをこのシリーズで見えています。

日本人は優秀なのでしょうが、ノーベル賞を受賞するような立派な科学者が多いです。ノーベル賞をもらうということは、やはりその人個人の優秀さが大いに関係するのだろう、と思われれます。しかし素人の考えを述べるのは恐縮ですが、ただそれだけではなく、もう一つのことがあり、その人が選んだ分野も関係する、と思うのです。

というのは、その研究者がどれほど優秀であっても、そもそも間違えた理論、間違えた結論の分野の研究に取り組んでしまうなら、ノーベル賞どころか、最後は時間やお金、人生の浪費で終わってしまうからです。そんな例、空しい人生の浪費で終わってしまう研究分野が進化論の領域と思われれます。

日本の進化論者として有名な人に今西錦司という教授さんがいました。彼は日本で最大の進化論学者であり、「棲み分け理論」をもって世界の今西として有名になりました。文化勲章を受章した京大名誉教授だったのです。しかし彼は後年、驚くべき発言をしました。「我々進化論学者は、進化論に不利な証言を隠してきた。これは学者として良心に恥じる。」と言って、進化論を捨ててしまったのです。のみならず「科学者廃業論」を「毎日新聞」に発表して科学者さえも辞めてしまったのです。彼は優秀だったのかも知れませんが、選んだ分野が悪かったとしか思えません。

このことを通し、日本で最高峰の進化論者が進化論を見限ってしまったことを通して、「進化論は正しいのか?本当に人間の存在とは偶然の産物に過ぎないのか?」私たちはよく考えるべきだと思われるのです。

遺伝子工学の権威として世界的に有名な筑波大学名誉教授、村上和雄博士のコメントも、人間の創造は偶然ではなく、たしかに(神)科学

的に造られたことを裏付けています。

「人の遺伝子情報は、わずか4つの塩基で構成され、この塩基のペアが約30億個連なっている。もしこの塩基の配列を偶然のものとするなら、私たち一人一人は、4の30億乗分の1という奇跡的な偶然の確率で生まれてきたことになる。しかしそのようなことは今の科学の常識では絶対にあり得ない。細胞1個が偶然に出来る確率は、1億円の宝くじを100万回連続して当てるのと同じようなものである。」

偶然に進化するとは今の科学の常識ではあり得ない、と博士は述べているわけなのです。160年前のダーウィンの時代と違って現在ではDNAの存在と仕組みが分かってきました。それにつれ、偶然進化という考えが理論的、確率論的にあり得ないことが分かってきました。

最近DNAを解析した科学者の一人が同じことを述べていました。「DNAの四つの分子の文字はタンパク質のアミノ酸の並び方を伝えることにより、その情報を伝えているのである。たとえばグルタミン酸は、GAGという三連文字により指示されている。その暗号解読表を見て驚くのは細菌、植物から人間まで、全ての生物は基本的には同じ暗号解読表を使っていることである。したがって大腸菌から万物の霊長と言われる人間まで、全ての生物はその遺伝情報を伝えるのに同じA、T、C、Gという、たった四つの分子の文字と同じ暗号を使っていたことになる。これは生物界における驚くべき統一性である。このようなことが、まったく偶然に起こり得るものであろうか。」と。そうです。偶然では起こり得ないのです。



科学者を廃業した進化論者:今西錦司氏

箴言から学ぼう！:神さまにお祈りを聞いてもらうためには？

〔聖書箇所〕箴言15:29

15:29 主は悪者から遠ざかり、正しい者の祈りを聞かれる。

「主」とは、神さま（主イエス・キリスト）のことです。今回は、神さま（イエスさま）にお祈りを聞いていただくためにはどうしたら良いのか？という点からお話させていただきたいと思います。ちなみに、「主」（神さま）というお方は、「ユダヤ人(クリスチャン)とギリシヤ人(異邦人、すなわちノンクリスチャン)との区別はありません。同じ主が、すべての人の主であり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです。(ローマ人への手紙10章12節)」と書かれてありますように、クリスチャン、ノンクリスチャン問わず、すべての人に対しての神さまである、ということがお分かりになるとと思います。それで私たちは何かがあったときに、このお方（神さま、イエスさま）にお祈りをするわけなのですが、しかしここで注意点が述べられております。それは、「悪者から遠ざかり」とか「正しい者の祈りを聞かれる」とありますように、全ての人の祈りを聞いてくださるお方ではない、ということです。ストレートに申し上げるなら、悪者、すなわち悪いことをしている人の祈りは聞きませんよ、でも、正しい人の祈りは聞いてあげますよ、ということをおっしゃっているのです。そのことに関連して、別の箇所でも同じようなことをおっしゃっていますので、参考までに見てみましょう。

〔聖書箇所〕ヨハネの福音書9:31

9:31 神は、罪人の言うことはお聞きになりません。しかし、だれでも神を敬い、そのみこころを行なうなら、神はその人の言うことを聞いてくださると、私たちは知っています。

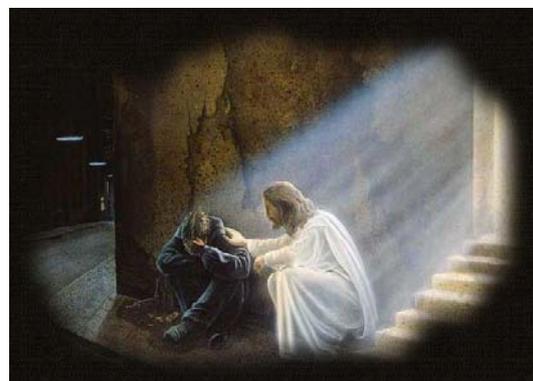
ここで、「罪人」ということばが出てきます。このことばは、先ほどの「悪者」と同じことを言われていると思います。そして、「罪人の言うことはお聞きになりません。」と、つまりここでも、罪を犯している人、すなわち悪いことをしている人の祈りは、神さまは聞きませんよ、ということをおっしゃっています。ちなみにここに書かれている「罪人」とは、当時の律法学者と呼ばれた人たちです。この人たちはどういう人たちだったのか？と言うと、彼らは律法、すなわち聖書のことばを教えている立場の人たちでした。今で言えば、牧師とか神父に相当する人たちです。つまりクリスチャンであります。ゆえにここで理解出来ることは、クリスチャンであろうとそうでなかろうと、いずれも「罪」を犯している、というときに、あるいは、そのように神さまに判断されてしまった場合に、神さまはお祈りを聞いてくださらない、ということでもあります。ですから、もし、「罪」があるのでしたら、まずはそのことを悔い改めていかなければいけません。ちなみに「罪」とは、原語では「的外れ」という意味だそうです。もちろん人のものを盗んだり、殺人を犯したり、と、いわば法を犯すこともそうですが、しかしそれだけではなく・・・そしてこのことは著者個人が示されたことではありますが・・・神さまのご意向や思いと相違があったり、神さまの忌むべきものがあつたりすることも、神さまの前には「罪」（的外れ）という風に見な

されてしまうのでは？と思います。「絶対にそうです！」とは言えませんが、上記に、「みこころ(神さまのご意向や思い)を行なうなら、神はその人の言うことを聞いてくださる」という風に書かれていますが、その逆を考えるなら、そういうことが言えるのではないかなあ、と思うのです。そしてみこころを行なうなら、つまり神さまのご意向や思いに沿うことを行っていくのなら、お祈りを聞いてくださる、ということをおっしゃっていると思います。

さらに箴言28章では、「耳をそむけて教えを聞かない者は、その者の祈りさえ忌みきらわれる。」(箴言28章9節)ということが書かれています。「教えを聞かない者」とは、みこころを行わない人に通じるのではないかと思います。そして少し厳しいようではありますが、そういう人に対して、その祈りすら忌み嫌われる、と言われております。ですから、もし、「神さまにお祈りを聞いて欲しい！」と思われているのであれば、みこころを行っていくこと、つまり神さまのご意向や思いに沿うことを行っていくことにも力を入れていきたいと思っております。

大分前のことですが、以前通っていた教会の方がこのような話をしていました。「私はかつてある罪を犯していました。そしてそのことで神さまから再三御指摘を受けていたのですが、心を頑なに悔い改めるのを拒否していました。その間、いくらお祈りしても聞いてもらうことは出来ませんでした。しかしある時、意を決してその罪を悔い改めました。そしてそれから神さまのみこころを行うことに心を向けるようになりました。その後、ありとあらゆるお祈りが聞かれるようになりました。こういうことなら、もっと早目に悔い改めれば良かったなあ。」とおっしゃっていました。

このことから、「罪」が私たちが神さまから遠ざけたり、あるいはお祈りを聞いてもらえることを妨げてしまうことがご理解いただけるかと思いますので、もし、何か「罪」にお心当たりがありましたら、そこからは離れていきたいと思っております。また、少しずつでも神さまのみこころを行うことも心がけていきたいと思っております。そして神さまにお祈りを聞いていただけるようにしていきたいと思っております。よろしければこのようなことをご理解いただけると幸いです。



正しい人の祈りを聞いてくださるイエスさま(神さま)

詩篇を読む:神さま(イエス・キリスト)を王とするなら

【聖書箇所】詩篇10:16

10:16 主は世々限りなく王である。国々は、主の地から滅びうせた。

こちらの聖句で、「主」(神さま、イエス・キリスト)は「世々限りなく王である。」ということが言われています。つまり神さま(イエス・キリスト)は、王なのです。私たちが認めるかどうかは別として、しかし聖書にこのように書かれている以上、神(イエス・キリスト)こそが世々にわたって王である、という風に理解出来ます。また、「国々」のところはKJV訳では、「異教徒」と書かれています。KJV訳の聖書は、正しいギリシャ語の原典に基づいていますので、上記の新改訳聖書に比べて正しいと思われまので、そのように解釈したいと思えます。そして「異教徒は、主(神さま、イエスさま)の地から滅んだ」、もっと分かりやすく言うなら、消え去った、ということを言われています。端的に言うなら、神さま(イエス・キリスト)のみが王である、ということでありま。そして、「国々(KJV訳:異教徒)は、主の地から滅びうせた。」とありますように、「神さま(イエス・キリスト)以外のものを王とするときに滅んでしまう」ということが言われています。これは裏返して言うなら、「神さま(イエス・キリスト)を王とするなら、滅びることはありませんよ」ということを言われていると思えます。さらに言うなら、もし生涯にわたってこのことに徹していくのなら、滅びずに天国に入れてもらえる、永遠の命をいただける、ということを言われているのでは?と思えます。

ところで、「神さま(イエス・キリスト)を王とする」とは、具体的にはどういうことを言われているのか?について少し考えてみたいと思えます。「王」ということばを考えると、どういうことを思い浮かべられるでしょうか?多くの人が、「一番偉い人」ということを真っ先に思い浮かべると思えます。そしてこの世の中もそうですが、私たちは偉い人、つまり権威者の言うことに従いますよね。それと同じように、「神さま(イエス・キリスト)を王とする」、というときに、私たちはこの方の言われることに聞き従う、ということになります。そしてそれは、神さまを中心とした生活を送ることに通じます。もっと分かりやすく言えば、いつでも神さまをボスとすることです。それでは実際にはどういうことなのか?について少し例を挙げてみたいと思えます。

随分前のことですが、著者は学生時代にあるクリスチャンからこのような話を聞いたことがあります。「私はね、毎朝このようにお祈りしています。『神さま、今日も私のことを自由に使ってください。好きなように用いてください。』と。私は神さまの前には、自分は『ほうき』だと思っています。『ほうき』というのは人に自由自在に用いてもらって部屋をきれいにしますよね?それと同じように、私も神さまに好きなように使ってもらうことにしています。そうしていくと、あらゆることが良い方向へ行くのです。」ということをおっしゃっていま

した。

当時の著者は、「良い話だなあ。」と思いましたが、しかしなかなかその境地には至りませんでした。けれども大いに共感したり、感銘を受けるものがありましたので、この話をちょくちょく思い出しては、いずれ自分もそうなれたらなあ、なんていう風に少しずつ願うようになりました。そしてのちになって、このことはまさしく、「神さま(イエス・キリスト)を王とする」ことなのでは?と思えました。そして実際にわずかでも、そのように願っていく中で、あらゆる思い患いから解放されていったり、神さまからの守りや助けが与えられたり、神さまによる喜びや平安で内側が満たされていくことを徐々に体験出来るようになっていきました。もちろん一足飛びにはいきませんが、時として失敗を繰り返してしまう、なんていうことも度々ありましたし、むろん今でもありますし、また、当初は自分が無くなるみたいで不安に感じることも度々あり、今現在もそういうことが全くゼロになったわけでもないのですが・・・けれども少しずつ積み重ねていく中で、次第にそういう思いも解消されていくようになり、今では、「神さま(イエス・キリスト)を王とすることは素晴らしい!」と思っています。

そうなんです。「神さま(イエス・キリスト)を王とする」とは、率直に言ってしまうと、イエス・キリストに全てを捧げていくことなのです。さらに分かりやすく言うなら、イエス・キリストにありとあらゆることをお任せしていくことなのであります。そしてお任せした結果、どうなるのか?と言うと・・・かつてのキリストの12弟子のペテロやヤコブやヨハネが全てを捨ててキリストに従ってその歩みを全うした結果、天国に入って永遠の命を得ましたように、私たちもそのことを選ぶのなら、彼らと同じことが約束されるのです。人間的に考えてしまうと、そんなことはすぐには出来ないし、色々損をしそうだし・・・なんていう思いもよぎるかも知れませんが、でも、心からそのことを願って祈り求めていくのであれば、多少の時間はかかっても、また、失敗を繰り返してしまう、なんていうことがあったとしても、しかし徐々に実態が伴うようになり、次第にそういう方向性に進んで行けるようになっていきます。そして生涯にわたって続けていく延長線上には、天の御国や永遠の命が約束されますので、ほんのわずかでも、「やってみる価値があるかも・・・」なんて思われましたら、ぜひ、おすすめいたします。「神さま(イエス・キリスト)を王とする歩み」を選択されました全ての方の上に、神さま(イエスさま)の助けと守りが与えられて、最後まで全うすることが出来ますように、陰ながらお祈りしております。



神さま(イエス・キリスト)こそが、永遠の王

キリストを信じた体験談:神さまが真の解決者であることを知った(シャローム)

ヨハネの福音書1章1節に、「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」と記されています。

私は、はじめはこのことばが何のことか、よく分かりませんでした。他の聖書箇所もそうですが、自分の考えと違っていたり、理解も出来なかったりする時は、無理にこじつけたりせず、神のことばを尊重するようにしています。その時、理解出来なくても、読み進めていくようにしています。

上記テキストに、「ことばは神」と書かれています。ですから、逆に神さまを信じると言うなら、みことばをも信じ受け入れないと、神を信じるとは言えないと受け取れます。

私は以前ある牧師から、みことばと自分の考えが異なった場合、みことばを中心軸にするとぶれることがない、というメッセージを聞きました。なるほど、ととても共感を覚え、みことばを優先するよう、変えられていきました。

過去を振り返ってみても、みことばを選んで後悔したことは一度もありません。神のことばが真実であることをクリスチャン人生を通して体験的に知るようになりました。

しかし、それと共に自分の中にまだ変えられていない部分があり、自分であれこれと考え過ぎてしまい、信仰が弱くなってしまいうこともありました。

「あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。」(第一ペテロの手紙5章7節)ということばがあります。

そのことばが私の心の中に響いてきました。このことばを信じ受け入れよう、それが信仰だと気付くことが出来ました。すると悩みが

すべて解決したわけではないのですが、気持ちが大分楽になってきました。日常生活の様々な問題も祈って対処すると違ってきました。問題は許されても、心の持ちようです。随分違うのです。

あらゆる人間関係においても主に祈り、神さまに頼り頼むことの大切さを知りました。ところで、イエス・キリストは私たちの罪のために十字架にかかってくださいました。

そのこと、あがないの深さを思い知りました。人間的な解決を求めても、疲れてしまうことが理解出来ました。真にみことばを自分のこととして受け入れていくときに、みことばが生きて働かれることを知りました。私のために尊い命を捧げられたキリストに委ねていこうと思いました。

そして自分の弱さを損と思っていたことが、かえって益となりました。自分の弱さを知り、そのことを受け入れた時、上記、第一ペテロの手紙5章7節のみことばが、はじめて自分を生かすことばとなりました。自分の弱さよりも、むしろ神のことばを全面的に受け入れていなかった自分の頑なさに問題があったことに気付かされました。真の解決者である神さまに感謝します。



思い煩いを神に委ねる

聖書に関する偉人のことば:マハトマ・ガンジーのことば/お知らせコーナー

<聖書と偉人>



マハトマ・ガンジー

私の生涯にもっとも深い影響
を与えた書物は聖書である。

<お知らせコーナー>

●聖書贈呈プレゼント！聖書通信講座！

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか？少し、聖書に興味がわいてきましたでしょうか？このたび、当教会では聖書贈呈、プレゼントを行っています。この機会に聖書をあなたも読んでみませんか？また、ご希望の方には、聖書通信講座も開設しました。申込者全員へ、贈呈可能です。ご興味がありましたら、ぜひ、お申し込みください。

以下を記載の上、mail:truth216@nifty.com もしくは fax:020-4623-5255 もしくは tel:042-364-2327 へ連絡ください。

- (1) 聖書贈呈に申し込みます。
 - (2) 聖書通信講座に申し込みます。
- *ご希望の番号に○をつけてください。(複数可)

郵便番号:

住所:

名前:



見本

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-360-3311)

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、「Yahoo! Japan」で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>